

令和7年 6月23日

川崎市議会議長 原 典之 様

中原区

TODOROKI ☆未来プロジェクト

ほか 154名

等々力緑地再編整備計画における釣池の北側及び東側の自然環境
保全に関する請願

請 願 要 旨

等々力緑地の釣池及びその北側と東側について、動植物の生息状況を的確に把握した上で、現在の自然環境や生物多様性を保全しながら、それらを緑地の魅力向上に生かすような整備計画を検討してください。

請 願 理 由

等々力緑地には、周辺の都市公園では見られない3万㎡を超える池があり、その水辺環境には、「ふるさとの森」や「21世紀の森」といった他の区域では確認できない、多様な自然生態系が育まれています。

しかし、再編整備に係る環境アセスメントにおいて、この地域は鳥類を除く「陸生動物」の調査対象から除外されており、十分な調査・評価がなされていません。市民による観察では、準備書に記載のない、オオユミアシゴミムシダマシやアオモンイトトンボなどの貴重な昆虫が確認されています。

また、外周園路には絶滅危惧種であるクゲヌマランが自生しており、再編整備に伴って移植等の保全措置が検討されていますが、環境影響評価審議会では、移植後に全滅の可能性があるとの指摘もありました。

等々力緑地は鳥獣保護区に指定されており、釣池とその外周園路沿いの樹林帯には多くの野鳥が生息しています。特に池内の浮島では、「絶滅の恐れがある

地域個体群」であるサギ類のコロニーが形成されており、現在はフェンス等で立入りが制限され、静かな環境を守る「緩衝帯」として機能しています。また、オオタカを始めとする猛禽類の飛来も確認されており、生態系の豊かさと健全性が示されています。

このように、等々力緑地の釣池周辺は、都市の中で希少な動植物を間近に観察出来る貴重な自然環境と高い生物多様性が保たれています。しかしながら、進行中の再編整備計画では、釣池を親水空間として開放し、沿岸部にデッキやジョギングコースを設置するとともに、SUP（スタンドアップパドルボード）などの水面レジャーの導入が予定されています。また、「かいぼり」の実施も計画されており、その影響が懸念されます。

現状の生態系が十分に把握されないまま整備が進められることにより、貴重な生息環境が損なわれる恐れがあります。したがって、整備に着手する前の段階で、釣池及びその北東側の自然環境、とりわけ浮島を含む水辺の生物相について丁寧に調査を行い、その結果を踏まえて、可能な限り自然を保全する方向で整備計画を検討すべきです。

東京都江東区の荒川・砂町水辺公園では、生物多様性に配慮した都市緑化の一環として、水辺環境や植生状況を事前に調査し、段階的に整備を進める取組が行われています。このような事例は「都市公園法」や「生物多様性基本法」に基づく科学的知見を生かした持続可能な管理の好例であり、等々力緑地の整備においても、同様に慎重で丁寧なアプローチが求められます。

現在、虫取り網で生き物を観察する子どもの姿が見られ、釣池周辺では自然とのふれあいが日常的に生まれています。都市公園でありながら、希少な動植物と日常的に出会えるこの場所は、市民にとっての癒やしの場であり、子どもたちの自然教育の場としても非常に価値があります。今後、水辺の環境を学ぶ場として整備すれば、多様な生態系への理解をさらに深めることができ、都市における「生きた教材」となります。整備にあたっては、こうした教育的価値を生かしていく視点が重要ではないでしょうか。さらに、この自然資源は、等々力緑地の個性や事業的な付加価値にもつながる可能性があります。

このかけがえのない自然環境が将来にわたり持続的に保たれ、市民の共有財産として次世代に引き継がれるよう、慎重かつ丁寧な整備計画の検討を強く要望いたします。

紹介議員

野	田	雅	之
川	島	雅	裕
鈴	木	朋	子
宗	田	裕	之
重	富	達	也
三	宅	隆	介
飯	田		満
三	浦	恵	美